慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	成人期発症型喘息患者のセルフマネジメントを強化する看護支援モデルの開発
Sub Title	Development of nurse-led support to enhance self-management in adult-onset asthma patients
Author	藤島, 麻美(Fujishima, Asami)
Publisher	
Publication year	2025
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2024.)
JaLC DOI	
Abstract	成人期発症型喘息患者が自身の疾患をどのように認識し、どのように喘息と向き合いながらセルフマネジメントを獲得しているのかを明らかにし、セルフマネジメント定着化に向けた医療的アプローチに対する示唆を得ることを目的として研究を行った。9名の対象者のインタビュー内容の分析から、薬剤の副作用や他者との関係から影響を受け、進歩と後退を繰り返しながら自己管理スキルを非線形的に構築していく様相が明らかになった。患者の心理面や生活面にかかわることが多い看護師は、患者が積極的に治療計画に参加し、セルフマネジメントの方法を患者自身の生活や人生に合うように自ら調整できるサポートが重要であることが示唆された。 This study explores the perceptions of asthma and self-management behaviours among people with adult-onset asthma to identify key barriers and facilitators of self-management and inform clinical support and intervention approaches. Six key themes were identified. Self-management skills were constructed in a nonlinear way, with patients reporting both progress and setbacks. Delivering patient-centred support, improving medical professionals-patients communication, and developing self-efficacy are important nursing support and can help achieve sustained asthma self-management among adults with adult-onset asthma.
Notes	研究種目：研究活動スタート支援 研究期間：2020～2024 課題番号：20K23142 研究分野：臨床看護学
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_20K23142seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　７ 年　 ５ 月 ３０ 日現在

機関番号：３２６１２
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2020～2024
課題番号：２０Ｋ２３１４２

研究課題名（和文）成人期発症型喘息患者のセルフマネジメントを強化する看護支援モデルの開発

研究課題名（英文）Development of nurse-led support to enhance self-management in adult-onset asthma patients

研究代表者

藤島　麻美（Fujishima, Asami）

慶應義塾大学・看護医療学部（信濃町）・助教

研究者番号：２０８８０９３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：成人期発症型喘息患者が自身の疾患をどのように認識し、どのように喘息と向き合いながらセルフマネジメントを獲得しているのかを明らかにし、セルフマネジメント定着化に向けた医療的アプローチに対する示唆を得ることを目的として研究を行った。9名の対象者のインタビュー内容の分析から、薬剤の副作用や他者との関係から影響を受け、進歩と後退を繰り返しながら自己管理スキルを非線形的に構築していく様相が明らかになった。患者の心理面や生活面にかかわることが多い看護師は、患者が積極的に治療計画に参加し、セルフマネジメントの方法を患者自身の生活や人生に合うように自ら調整できるサポートが重要であることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では成人発症型の喘息患者が診断を受けてからセルフマネジメントを獲得していく過程における患者の喘息およびセルフマネジメントに対する認識と課題を明らかにし、セルフマネジメント定着にむけた医療従事者、特に看護師による戦略を考察した。成人期に喘息を発症した患者に必要な看護学的な支援として、副作用と生活の調整、医療従事者や周囲の人々とのコミュニケーションスキルの向上、自律性を重視した治療プログラムへの患者による積極的な参画にフォーカスした教育プログラムの開発の必要性が明らかになった点が、本研究の社会的意義であるといえる。

研究成果の概要（英文）：This study explores the perceptions of asthma and self-management behaviours among people with adult-onset asthma to identify key barriers and facilitators of self-management and inform clinical support and intervention approaches.
Six key themes were identified. Self-management skills were constructed in a nonlinear way, with patients reporting both progress and setbacks. Delivering patient-centred support, improving medical professionals-patients communication, and developing self-efficacy are important nursing support and can help achieve sustained asthma self-management among adults with adult-onset asthma.

研究分野：臨床看護学

キーワード：成人期発症型喘息　セルフマネジメント　看護支援

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

成人期に発症する喘息患者の数は、都市化や人口の高齢化などの要因により、世界的に増加し続けている。日本における気管支喘息の有病率は成人で 6-10%であり、その中でも成人期になって初めて発症する喘息は、成人喘息患者全体の 70-88%を占めるといわれている。成人期発症型の喘息は、アレルギー反応を基盤とする小児喘息に比べて、病因・病態の点で多様性が指摘されており、アレルゲンの特定が困難であること、経年的な肺機能の低下や合併症の関与などにより、小児に比して慢性化・重症化する傾向がある。

近年の喘息治療の進歩と普及は、喘息急性憎悪の入院数及び喘息死数の著しい減少をもたらした。しかしながら、依然として日本では年間 1500 件の喘息死が存在しており、その 90%以上が成人である(土橋, 2019)。成人喘息患者の発症年齢は、社会的に中心的役割を果たす中高年に多く、喘息の発症による活動の制限や症状による苦痛から QOL の低下を伴うことが報告されている(Stanescu et al., 2019)。また、喘息患者はその症状からの半数に不安や抑うつなどの何らかの精神症状を認めることがわかっており(Bedolla-Barajas et al., 2021)、特に喘息のコントロールが不良な患者においてその割合が高いことが指摘されている(Ilmarinen et al., 2019)。さらに喘息患者の日常生活における制限は労働生産性の低下につながり、医療費の圧迫など、社会・経済的に多大な損失をもたらしている。これらのことより、現在でも多くの成人喘息患者を有する我が国において、これらの患者に対する医療および支援体制の構築は喫緊の課題である。

喘息の慢性化や重症化を防ぐためには、患者が自己の症状をコントロールするための薬物療法を遵守し、発作の要因を除去し、悪化を予測して重症化する前に対処を行うセルフマネジメントが極めて重要である。しかしながら、日本における喘息患者の約 3 割において薬物療法に対するセルフマネジメントが不良であり、その理由として、非定期的な服薬指示や、正しい治療や使用法についての認識の低さが関与している可能性が示唆されている。喘息は症状がない時期にもコントロールを行うことが重要であるが、発作時以外では無症状であるという喘息疾患の特徴から、セルフマネジメントを中断する場合も多いことが報告されている(Ohta et al., 2010)。特に、成人期発症型の喘息患者の場合、小児喘息から移行した患者と異なり、吸入手技の獲得や症状のセルフモニタリング、受診行動などを、これまで送ってきた日常生活の中に組み込まなければならず、セルフマネジメント行動の定着化に難渋することが予測できる。しかしながら、成人期に喘息を発症した患者がどのように自己管理スキルを習得しているかは十分に明らかにされていないため、本研究により成人喘息患者のセルフマネジメントの定着化に必要な医療的アプローチへの示唆を得ることが重要であると考えた。

２．研究の目的

成人期発症型喘息患者が自身の疾患をどのように認識し、どのように喘息と向き合いながらセルフマネジメントを獲得しているのかを、患者の体験から明らかにし、セルフマネジメント定着化に向けた医療的アプローチに対する示唆を得ることを目的とした。

３．研究の方法

(1) 研究対象者

成人になってから喘息を発症された患者のうち、薬剤療法等によるセルフマネジメントを少なくとも６ヶ月以上経験したことのある者。

(2) データ収集

2021 年 11 月から 2022 年 7 月まで、1 回 60 分程度の半構造化面接を実施した。インタビューの前に、基本的項目として性、年齢、治療内容、入院歴、他疾患の罹患状況、家族形態、勤務形態、家計の経済状態について聴取し、喘息のコントロール状態を判断する Asthma Control Test (Nathan, et al.,2004) を測定した。なお、ACT の利用については Quality Metric Incorporated 社に使用許諾を得てから使用した。インタビューでは、喘息発症時のエピソード、発症から現在までの喘息症状の認識、喘息治療およびセルフマネジメントの内容についてとそれに対する思い、喘息治療に関わる医療従事者との関係、喘息のセルフマネジメントを困難にする出来事や促進する因子について、喘息を発症してから家族や周囲の人々との関係の変化の有無、喘息を発症してから社会的役割における変化の有無などについてできるだけ自由な語りを促した。

(3) データ分析

データは U.H. Graneheim& B. Lundman(2004)の方法を参考に質的に分析した。データはソフトウェアプログラム N-VIVO を使用して管理した。研究の目的である喘息患者がセルフマネジメント行動を獲得していく過程における認識と体験に関わると考えられる部分はすべて意味単位ごとに分け、意味単位の中核的な内容を維持しながら短縮し、それを凝縮された意味単位とした。凝縮された意味単位はさらにサブテーマに抽象化された。質的研究の経験豊富な研究者と熟考と議論のプロセスを経て、一連のサブテーマはテーマに統合された。複数のテーマを統合し、抽象度を上げ、メインテーマとした。

(4) 倫理的配慮

本研究は研究者が所属する教育機関の倫理委員会の承認を経て実施した。

４．研究成果

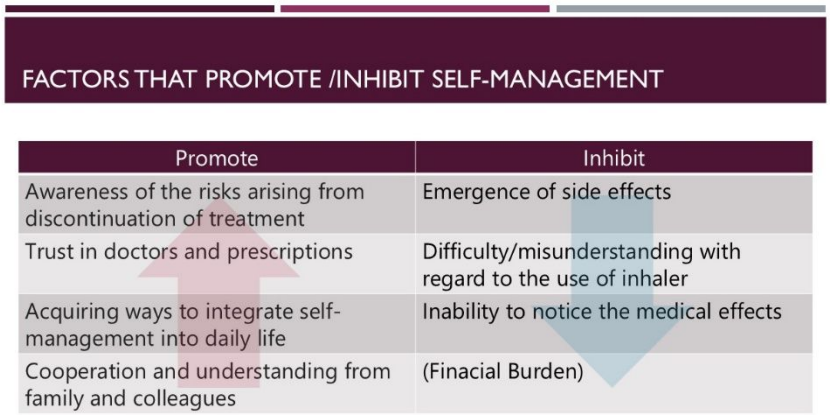
(1) 対象者の概要

2021 年 11 月から 2022 年 7 月までに、喘息患者会および呼吸器クリニックで参加基準を満たす候補者 12 名(男性 3 名、女性 9 名)を紹介してもらった。12 名のうち 3 名は小児喘息の既往が確認されたため、分析対象から除外した。最終的な研究参加者は 9 名(男性 1 名、女性 8 名)であった。平均年齢は 56.2 歳だった。

(2) 研究結果の概要と公表

① セルフマネジメントを阻害または促進する要因についての分析

自己管理を促進する要因として、1 治療中断によるリスクの認識,2 医師や治療内容に対する信頼，3 セルフマネジメントを日常生活に組み込む方法の獲得，4 家族や同僚の協力と理解，が挙げられた。自己管理を妨げる要因として、1 副作用の出現，2 吸入器の使いにくさや誤認識，3 薬の効果が実感できないこと，が挙げられた。本研究の対象者の中には、経済的負担によって治療やセルフマネジメントを中断した者はいなかったが、治療費を稼ぐためにどうにかして働いているという人や、助成がなければ治療は続けられないという人もおり、経済的負担もセルフマネジメントを阻害する要因となり得ることが示された。本研究結果については、第 31 回 国際喘息学会 日本・北アジア部会にて口演発表をおこなった。



第 31 回 国際喘息学会 日本・北アジア部会　発表スライドより

② 喘息に対する認識とセルフマネジメントを獲得する体験についての分析

データの分析により、【診断と受け止めがその後を左右する】【継続は簡単ではない】【否が応でもやるしかない】【喘息と共に生きる人生との対峙】【逆風にも追い風にもなる他者との関係】【自ら積極的に舵取りに乗り出す】の 6 つの大テーマが抽出された。医療従事者に求められる役割として、①診断の過程と患者の喘息に対する受け止めがその後のセルフマネジメントに影響していることから、診断初期の病気の受け止めと、繰り返される発作の度に確実な診断を行うこと。②セルフマネジメントの継続を困難にする原因はこれまで明らかにされてきた薬の副作用や必要性の認識の欠如だけでなく、コントロールの著しい不良による場合なども含まれるため、医療従事者は患者個々の状況を理解することが必要であること。③薬剤の処方を行う医師だけでなく、気軽に相談できる看護師や薬剤師が治療に介入すること。④喘息と共に生きる人生をより良いものにするためには、周囲の理解とサポートが得られるように患者自身が行動できるように促すこと。⑤自己主導型でセルフマネジメントが行えるように患者に積極的に治療計画に参加してもらうことが挙げられた。本研究結果については、現在、論文投稿の準備中である。

<参考文献>

Bedolla-Barajas, M., Morales-Romero, J., Fonseca-López, J. C., Pulido-Guillén, N. A., Larenas-Linnemann, D., & Hernández-Colín, D. D. (2021). Anxiety and depression in adult patients with asthma: the role of asthma control, obesity and allergic

sensitization. *J Asthma*, *58*(8), 1058-1066. https://doi.org/10.1080/02770903.2020.1759087

Ilmarinen, P., Juboori, H., Tuomisto, L. E., Niemelä, O., Sintonen, H., & Kankaanranta, H. (2019). Effect of asthma control on general health-related quality of life in patients diagnosed with adult-onset asthma. *Sci Rep*, *9*(1), 16107. https://doi.org/10.1038/s41598-019-52361-9

Ohta, K., Minoguchi, K., Mizuno, H., & Oyama, N. (2010). [Survey of levels of asthma control among Japanese patients in general practice]. *Arerugi*, *59*(12), 1642-1647.

Stanescu, S., Kirby, S. E., Thomas, M., Yardley, L., & Ainsworth, B. (2019). A systematic review of psychological, physical health factors, and quality of life in adult asthma. *NPJ Prim Care Respir Med*, *29*(1), 37. https://doi.org/10.1038/s41533-019-0149-3

土橋, 邦. (2019). **【喘息管理の** Up-Date**】疫学　有症率・死亡数の推移** [**解説/特集**]. ***日本内科学会雑誌***, *108*(6), 1119-1127. http://search.jamas.or.jp/link/ui/2019296638

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 Asami Fujishima
２．発表標題 A study on factors affecting the self-management of adult patients with asthma
３．学会等名 The 31st Congress of Interasma Japan / North Asia（国際学会）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

―

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関